

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 11 日

評価対象事業		評価者	文化人権課担当課長 藤田 聡一郎		
共創-25	実施事業	文学館管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	文化人権課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	観覧や教養及び調査・研究に資するため。
効果	鎌倉ゆかりの文学及び文学者に対する理解を深めることができる。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度により、文学館の効率的な管理運営を行なった。</li> <li>指定管理者との役割分担に応じた維持管理を行なった。</li> </ul>
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		データ区分	02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口		人 口			人 口		
人口等のデータ	人 口	176,308人	176,436人	人 口	176,608人			・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	81,763世帯	82,444世帯	世 帯 数	83,058世帯			
	事業の対象者数	100,672人	78,400人	事業の対象者数				
運営資源状況	決算値(千円)	74,022	77,398	当初予算(千円)	76,661			
	国県支出金			国県支出金				
	地方債			地方債				
	その他	21	21	その他	21			
	一般財源	74,001	77,377	一般財源	76,640			
	人員配置数	0.7	0.7	人員配置数	1.2			
	人件費(千円)	5,572	5,780	人件費(千円)	9,632			
事業費運営	総事業費(千円)	79,594	83,178	総事業費(千円)	86,293			
	市民1人当りの経費(円)	451	471	市民1人当りの経費(円)	489			
	対象者1人当りの経費(円)	791	1,061	対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
		○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー 市民団体（不特定）

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する				事業へ統合

予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	引き続き、指定管理者と連携しながら効率的な管理運営を行うとともに、緊急度の高い箇所の修繕を計画的に行なっていく。 また、施設等の老朽化による大規模修繕の必要が生じており、計画的且つ効果的な改修を行うための劣化調査を行い、効率的な実施を進める。
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評 (評価に対する考え方、根拠等)	<p>効率性については、修繕の手法や、緊急度によって優先順位をつけることで経費削減の可能性はある。</p> <p>文学館は本市ゆかりの文学及び文学者の功績を市民等に発信する場であり、本市の文化振興において重要な役割を担っている。本市景観重要建築物である本館やバラ園を有する広い庭園等、魅力あふれる施設であり、令和元年度は度重なる大型台風の襲来や新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館等により来館者数が10万人を下回った。例年は10万人を超える来館者が訪れていることから、妥当性については「市民ニーズ」を「変わらずにある」とした。また、有効性については、「事業の成果」を「概ね出ているが、更なる努力は必要である」とした。</p> <p>市民団体等との協働事業は指定管理者によって既に行われているが、今後も地域文化振興に寄与するため、地域イベントとの連携や庭園を活用した協働企画等を指定管理者と協議し、実施していく。</p> <p>開館から30年以上経過し、施設・設備の老朽化が顕著であり、来館者の安全を考慮し、緊急度の高い箇所から随時修繕を行っている。引き続き、指定管理者と協議し、計画的に修繕を行っていくとともに、劣化調査に基づき効率的に保全を行う。</p>
-----------------------	--

令和元年度(2019年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	開館から30年以上が経過し、施設及び設備の不具合が顕著である。 大規模修繕を視野に入れ、指定管理者と協議し来館者の安全と資料等の保全に向け、緊急度の高い箇所や設備の修繕を行う必要がある。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	指定管理者と協議の上、不具合が目立つ箇所及び来館者に危険が及ぶ可能性のある箇所等で緊急度が高い箇所の修繕を実施した。また、前庭の手摺の設置等、バリアフリーに配慮し、利便性を高める修繕を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	引き続き、緊急度の高い箇所や設備について修繕を行う必要がある。また、建物の保全に向けた計画的且つ効果的な修繕を行っていくため、劣化調査を行い効率的な修繕計画を立て実行に移していく。加えて、来館者の目線に立ち、バリアフリー等の観点を取り入れるなど利便性を高めるための更なる方策が必要である。	

◎ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	延床面積・来館者数(R01)							
団体名	鎌倉文学館 (鎌倉市)	県立近代文学館 (神奈川県)	大佛次郎記念館 (横浜市)	世田谷文学館 (世田谷区)				
他市実績	1,412㎡ 78,400人	7,285㎡ 45,949人	768㎡ 25,593人	4,593㎡ 252,502人				

比較事項	収蔵数							
団体名	鎌倉文学館 (鎌倉市)	県立近代文学館 (神奈川県)	大佛次郎記念館 (横浜市)	世田谷文学館 (世田谷区)				
他市実績	84,125点	1,284,000点	70,000点	100,680点				

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	鎌倉文学館来館者数	単位	人	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0
	実績値	110,046.0	112,066.0	103,631.0	101,052.0	100,672.0	78,400.0
	達成率	110.0%	112.1%	103.6%	101.1%	100.7%	78.4%

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	例年、来館者数は10万人を超えており、その数を最低限維持するための目標値としている。年度による増減割合は1割に満たず、主な要因は天候等の外的なものと捉えているが、令和元年度については度重なる大型台風の襲来や新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う臨時休館等の影響が顕著に表れた結果となった。
-----------------------	--